

令和元年度（2019年度）第2回 豊中市公共施設等有効活用委員会

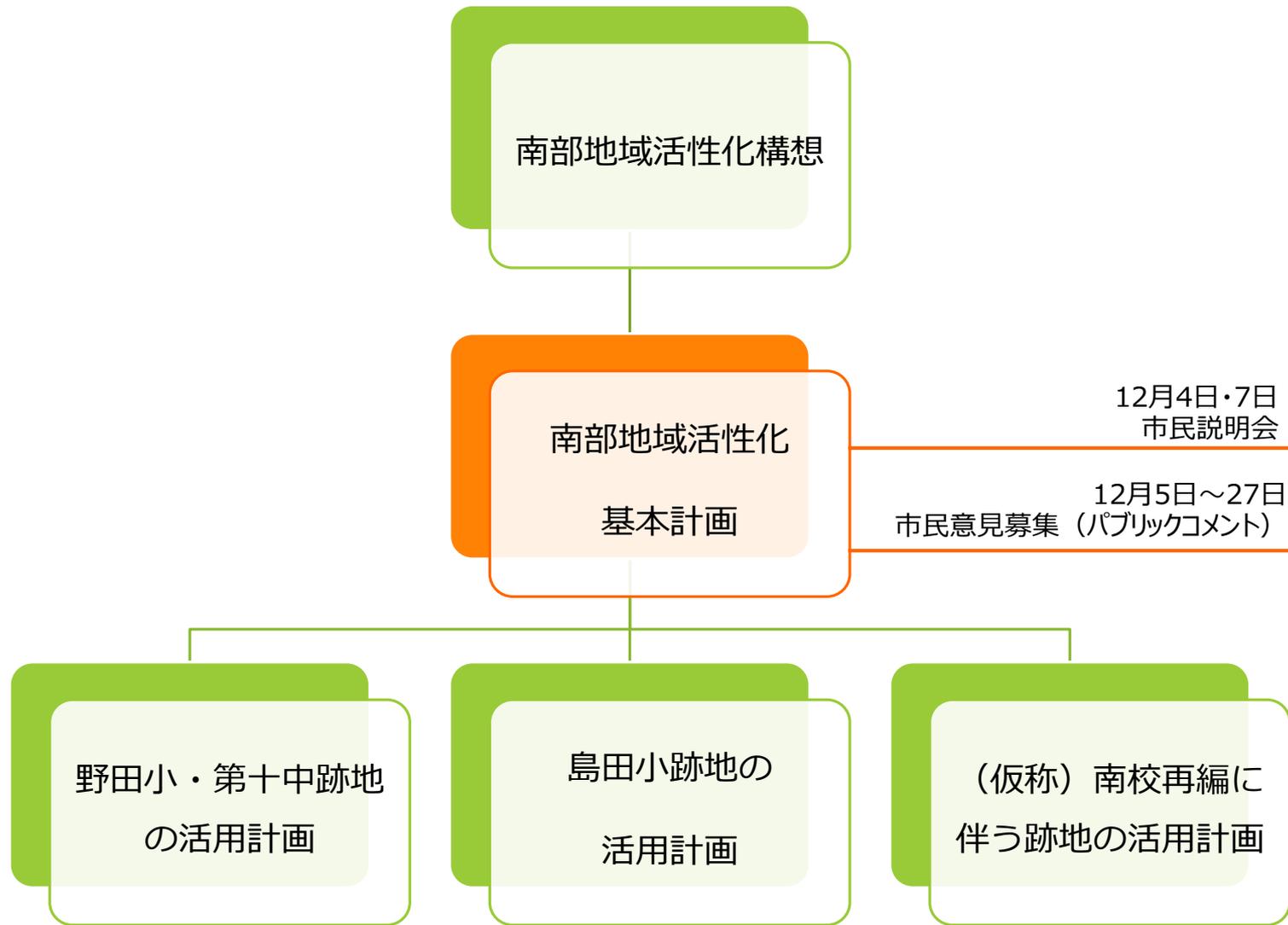
日時：令和元年（2019年）12月3日（火）18：30～20：00

会場：豊中市立生活情報センターくらしかん会議室

- 次第
1. 南部地域活性化基本計画について
 2. 地域・事業者からのご意見と今後のスケジュール
 3. その他

1. 南部地域活性化基本計画について

南部地域活性化基本計画と学校跡地活用計画とのかかわり



南部地域活性化基本計画（素案）

はじめに

- 1 南部地域とは
- 2 南部地域に関するこれまでの計画
- 3 南部地域活性化基本計画の位置づけ

第1章 南部地域の概況

- 1 南部地域における市民の意識
- 2 南部地域の地域特性
- 3 南部地域に関する計画
- 4 南部地域の構造

第2章 南部地域をとりまくこれからの動き

- 1 学校や公共施設の再編と跡地の利活用
- 2 ICTフィールド
- 3 新大阪駅周辺地域のまちづくり

第3章 まちの将来像

- 1 南部地域活性化のコンセプト
- 2 南部地域の活性化に向けたまちづくりの方向性
- 3 将来のまちの姿（ゾーニングと拠点施設）

第4章 計画推進のために

- 1 基本計画の見直し
- 2 目標と進行管理
- 3 学校跡地の個別活用計画との連動

2. 地域・事業者からのご意見と 今後のスケジュール

地元説明で得られた主なご意見①

項目	ご意見
学校再編・義務教育学校について	<ul style="list-style-type: none">・ 来年から庄内小学校が工事に入るため、地域活動の場はどうかなど、各校区は庄内小学校区の動向を注視している。・ (仮称)庄内さくら学園が義務教育学校のモデルとなるため、注視している。・ 地域に子どもが住んでいても、再編される校区では、子どもたちとの接点が変わってくる。・ 通学距離が遠くなるのが心配である。・ 通学の見守りを地域だけに頼るのは、やめてほしい。
地域活動について	<ul style="list-style-type: none">・ 各小学校区によって文化が違う。・ 地域活動がなくなると、地域が壊れてしまう。・ 地域活動の場所は、必要である。・ これまでと同じ活動をするなら、グラウンドや体育館が必要である。・ 学校が一つになって、旧校区単位で地域活動が続けていけるのだろうか。・ 地域活動の仕組みも新たに考える必要がある。・ 地域の組織が多すぎるので、整理してはどうか。
学校跡地の機能について	<ul style="list-style-type: none">・ 放課後こどもクラブなど、子どもたちの居場所をどのように考えているのか。・ 避難所機能は必ず必要である。・ 避難所機能としてならば、体育館よりも教室のように区切られた空間のほうがいいかもしれない。

地元説明で得られた主なご意見②

項目	ご意見
学校跡地の活用について	<ul style="list-style-type: none">・ 学校跡地の活用は、しっかり地元と議論してほしい。・ 他市から視察に来るような他にない活用をしてほしい。・ 商業、医療施設、高校、専門学校、幼児教育などを誘致できないか。・ 経費の多寡だけではなく、地域活性化のためにどのように活用すればいいかコンセプトを決めてほしい。・ 地域の人のためだけでなく、地域活性化のためにどう活用するかも重要である。・ 説明会をアリバイ作りに使われたくない。きちんと意見を聴く場にしてほしい。
まちづくりについて	<ul style="list-style-type: none">・ 都市計画としてのまちづくりを考えてほしい。・ 空き家・空き店舗が多いので、上手く活用できないか。・ 若い人が住みたくなるまちづくりを考える必要がある。・ どんなまちにしたいか軸が必要である。・ 地域特性を活かしたまちづくりをしてほしい。・ 行政だけで考えるのではなく、専門家の意見も聞いてはどうか。・ 20, 30年後のまちづくりを考えるなら、若い人に話を聞く必要がある。・ 豊中市が一体となって、南部地域の問題を考えてほしい。

事業者ヒアリングで得られたご意見①

事業者所在地 = 西部、区分 = 製造業

<メリット>

- 豊中市は交通の便が非常によく、製品の輸送や海外への販売に便利
- 人の行き来のしやすい場所であり、空港が近いため、遠方からの顧客も気軽に来てくれる
- 従業員の通勤に便利

<デメリット>

- 事業規模を広げようとしても場所がない

事業者所在地 = 南部、区分 = 製造業

<メリット>

- 人材確保が困難な状況なので、良好な住環境があり、交通利便性が高い豊中市は、従業員確保の面でメリットが大きい

事業者所在地 = 市外、区分 = 金融業

<メリット>

- 従業員の確保が課題、住宅地に近い場所での立地を希望する企業もある

<デメリット>

- 市内に利用可能な土地が少なく立地が進まない
(製造業や建設業から施設の移転や設備投資に関する相談を受けることが多く、需要は多いと思われる)

事業者ヒアリングで得られたご意見②

事業者所在地 = 南部、区分 = 宿泊業

<メリット>

- 早期便の飛行機に乗るための宿泊や、ミュージカルやイベントなど目的に合わせた利用者が多い
- 交通利便性が高く、文化ホールなどもあり、文化芸術活動が活発であることが強み
- 南部エリアは、外国人を受け入れる雰囲気があり、飲食店を気軽に紹介しやすい

事業者所在地 = 南部、区分 = 製造業

<メリット>

- 南部エリアは、地域とのつながりを構築しやすいのが強み

事業者所在地 = 市外、区分 = 建設業

- 豊中市は良好な住宅環境のイメージがあり、大規模な土地でマンション開発をしたい事業者は多い
- 開発事業者のスピード感は早い。提案から事業化までの期間が長すぎると社会情勢の変化により実現が難しくなる可能性がある。

その他、豊中から出ていった事業者からの意見

- 周辺環境の変化 = 住宅が周囲にたくさん建ってきて、苦情が出たことが原因
- 事業規模を拡大するにあたって、手狭になった→豊中に安い土地がなく、断念し移転することになった

平成30年度（2018年度）産業状況調査ヒアリング結果より（抜粋）

令和元年度（2019年度）南部地域活性化基本計画策定に向けた企業ヒアリングより

市民提案募集について

○地元説明の場では、学校再編の是非や工事期間中の地域活動スペースの整理、南部地域のまちづくりに関する議論が中心となり、学校跡地活用について地域で検討する気運そのものが醸成されている段階ではない

→ まず工事期間中の地域活動の場を確定

→ 庄内小・第六中から野田小・第十中への仮移転が完了した段階で市民意見を募る

事業者へのサウンディングについて

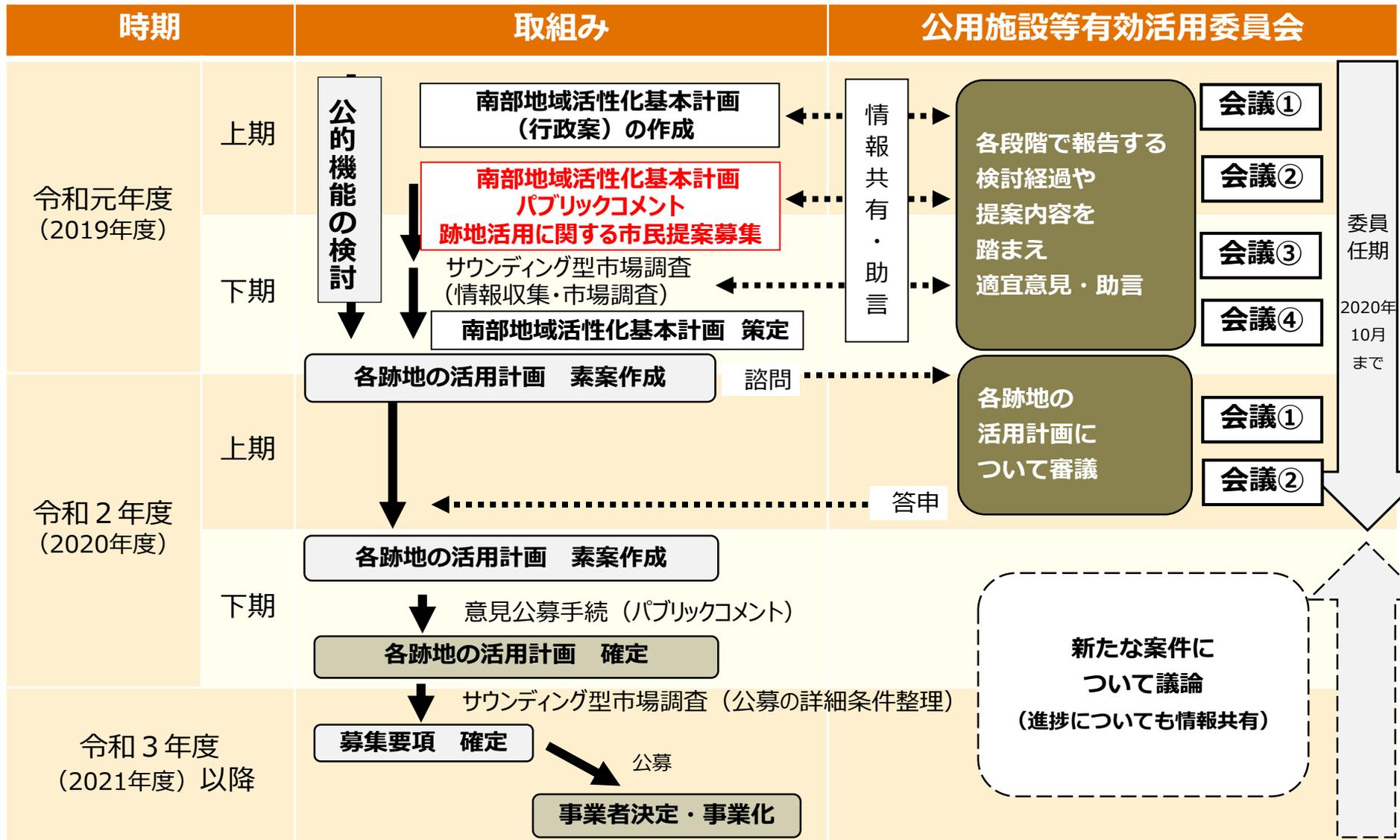
○南部地域のポテンシャルは高いが、事業者から提案するにしても、市側のまちづくりのコンセプトが固まっていない状態ではアイデアや意見を出しにくい

○民間事業者のスピード感からすると、現段階で令和5年度（2023年度）以降の活用を議論しにくい

→ 南部地域活性化基本計画策定後に企業フォーラムを実施し、学校跡地の動きについて、事業者に対して周知・啓発を図る

→ 豊中市の動きをPRし、その後の有効な提案につなげてもらえる場を設定

スケジュールの修正（変更前）



スケジュールの修正（変更後）

